

# ひたちなか市立那珂湊第一小学校（学校長 一家 広史）

実施日	平成20年2月13日（木）	時間	午前9時30分～午後1時30分
実施場所	体育館、教室	対象/人数	4年生82名
担当教諭	野口 博江	ファシリテーター	村尾 光子
講師	コー・テー（中国・留学生） パク・ミイジョン（韓国） リー・ペイ・リン（マレーシア） オレリアン・パロン（フランス・県国際交流員）		

## 活動内容

「中国大好き」「韓国大好き」「マレーシア大好き」「フランス大好き」にわかれ、講師から国の文化や生活について話を聞く

児童による日本の昔話「つるの恩返し」を音楽演奏  
給食交流

## 児童の感想

・マレーシアは多民族だということがわかりました。なので、マレーシアではいろいろな言葉を覚えなければいけないのという話を聞き「ぼくにはできない。すごいな。」と思いました。また、ゴムのなわ跳びやジャンケンなどの遊びも教えてくれました。ゴムで跳ぶと痛くないし、じゃんけんは5つあっておもしろかったです。

・次に、韓国のことを教えてもらいました。日本と韓国は2時間違っていて、韓国では6時でも明るいそうです。ぼくは「いいな。」と思いました。一日勉強で家に11時に帰るといので「よくできるな、ぼくはそんな生活いやだな。」と思いました。でも、いろいろ日本と同じところもあって「おもしろいな、韓国も」と思いました。

## 先生の感想

・4人の講師の先生方のお話からは、母国に対する愛情と誇りが感じられた。また、日本の国や子供たちを愛してくださっていることがよくわかった。初めは緊張していた子供たちの緊張をほぐしてくださったので、子供たちは先生方に親近感をもって接することができたと思う。

・子供たちは、それぞれの国の文化や習慣の違いを知ることができた。また、中国や韓国の先生方の話から日本と共通の文化を感じることもでき、日本と両国の交流の歴史を知ることができたと思う。

## 成果と課題

・児童はすぐに心を開き心から交流を楽しむことができた。グループごとに事前に中国・韓国・マ

レーシア・フランスの歴史や文化、それぞれの国の小学生の生活について図書資料やインターネットで調べまとめておいたことも有効だった。直接話を聞くことで資料などからはわからない異文化を感じ取ることができた。

・児童にとって海外はとても遠い存在だったが、今回のワールドキャラバンを通して身近に感じることができコミュニケーションをとることの楽しさを味わうことができた。

・今後は、一人一人の違いを認め合えるような人間理解を深めたり、国際理解教育を学校教育のなかで横断的に進めていきたい。

